

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2020年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2021年5月10日 提出

1. 研究課題名	
「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究 (英文標記: Study on Construction of "Old photograph GIS database on Kamo River" and Transition Analysis of River Environment)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
IIZUKA Takafusa	Aichi University, Associate Professor
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
YANO Keiji	Ritsumeikan University, Professor
TANIBATA Go	Hokkai-Gakuen University, Lecturer
OHMURA Junzo	Eathquake Research Institute, The University of Tokyo, Research Associate
SATO HIROTAKA	Ritsumeikan University, Assistant Professor
SHIMAMOTO Kazuyuki	Lake Biwa Museum, Curator

4. 研究課題の概要 (300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
The purpose of this research is to construct a digital archive of the old photographs GIS database on Kamo River, and transition analysis of river environment. We analyze the change of the river environment on Kamo river from Meiji era to Showa era using this GIS database.
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
This study results were the following two points. Firstly, the photography location of the picture was distinguished and it was classified every bridge using "old photographs GIS database". We also got the old postcard of the different time and made them renew the database. Secondly, we found out that there were most old photographs and the wide time of the Shijo bridge. As a result of the argument by the research group, we presented the research about the change of the Shijo bridge.

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

- ①飯塚公藤著『近代河川舟運の GIS 分析—淀川流域を中心に—』、単著、2020 年 9 月、古今書院、飯塚公藤、211 頁
- ②京都文化博物館編『伝える—災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料』、共編著、2021 年 3 月、NHK サービスセンター、大邑潤三
- ③一般社団法人 日本民俗建築学会編『民家を知る旅：日本の民家見どころ案内』、共著、2020 年 6 月、佐藤弘隆

(2) 論文

- ④大邑潤三「同和火災コレクション成立の背景とその来歴」、単著、2021 年 3 月、伝える—災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料、132-141 頁、査読無(招待有り)
- ⑤大邑潤三「「災害碑」という概念と分類方法の検討」、単著、2020 年 7 月、歴史都市防災論文集 14、115-122 頁、査読有
- ⑥大邑潤三「特集デジタル・ヒストリーの諸実践：歴史災害研究における GIS 活用の試み」、単著、2020 年 7 月、クリオ 34、139-140 頁、査読無(招待有り)
- ⑦岩橋清美・大邑潤三・加納靖之「文理融合によって切り拓く歴史地震研究の現在：一八三〇年文政京都地震を事例にして」、共著、2020 年 6 月、地方史研究 70(3)、75-79 頁、査読有
- ⑧服部健太郎・中西一郎・大邑潤三「日記の筆者が地震動を感じた地点の時間変化：近江八幡「市田家日記」の場合」、共著、2020 年、地震第 2 輯 73、65-68 頁、査読有
- ⑨大邑潤三「1925 年北但馬地震における震央付近の人的被害と救援活動：海軍史料の分析を中心に」、単著、2020 年、歴史地震 35 号、177-186 頁、査読有
- ⑩佐藤弘隆・武内樹治・今村聡・矢野桂司「「祇園祭デジタル・ミュージアム 2020」の構築・公開について」、共著、2021 年、E-journal GEO16(1)、87-101 頁、査読有
- ⑪佐藤弘隆「近代京都における町文書を用いた町内景観の復原—京都市東山区「弓矢町文書」の性格と復原方法の検討—」、単著、2021 年、アート・リサーチ 21、19-30 頁、査読有
- ⑫佐藤弘隆「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるフィールドワーク系授業の実」、単著、2021 年、記念誌：村上忠喜先生還暦記念日本民俗学講習会、査読無
- ⑬佐藤弘隆「2019 年度秋の見学会報告 丹後の漁村家屋にみる文化的景観」、単著、2020 年、民俗建築 157、37-42 頁、査読無

(3) 研究発表等

- ⑭飯塚公藤「英国における河川・運河の舟運利用—2012・2013 年調査報告—」、2020 年 9 月、地理学サロン、オンライン、査読無
- ⑮大邑潤三「「災害碑」という概念と分類方法の検討」、2020 年 12 月、第 14 回 歴史都市防災シンポジウム、査読無
- ⑯大邑潤三「1830 年文政京都地震における建物被害の特徴と人的被害の要因」、2020 年 10 月、日本地震学会 2020 年度秋季大会、査読無
- ⑰服部健太郎・中西一郎・大邑潤三「Temporal variation of the number of felt earthquakes recorded in the Omihachiman Ichida Family Diary: before and after the 1854 Iga-Ueno and 1854 Tokai-Nankai earthquakes (1842-1868)」、2020 年 10 月、日本地震学会 2020 年度秋季大会、査読無
- ⑱大邑潤三「1830 年文政京都地震による人的被害の発生要因」、2020 年 9 月、第 37 回歴史地震研究会(オンライン伊賀大会)、査読無
- ⑲岩橋清美・加納靖之・大邑潤三「比叡山周辺地域にみる 1830 年京都地震・1854 年伊賀上野地震の被害状況の分析」、2020 年 7 月、JpGU-AGU Joint Meeting 2020、査読無
- ⑳大邑潤三「「災害碑」が抱える問題点と分類方法に関する考察」、2020 年 7 月、JpGU-AGU Joint Meeting 2020、査読無

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

- ㉑飯塚公藤「招待講演：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏における近代舟運の変遷」、琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第 22 回近畿水環境交流会、2020 年 11 月 21 日
- ㉒飯塚公藤「新聞報道：鴨川の治水史古写真で分析」、京都新聞 夕刊 1 面、2020 年 10 月 5 日

(6) 受賞学術賞

- 大邑潤三「NPO 法人 知的資源イニシアティブ Library of the Year 2020 大賞 みんなで翻刻」、2020 年 11 月

⑳佐藤弘隆「公益社団法人 都市住宅学会 都市住宅学会業績賞」2020年10月

(7) 科学研究費助成事業

㉑飯塚公藤「東海地方における近代水陸交通の地域的変化に関する歴史 GIS 研究」、若手研究、2018年4月－2021年3月、代表

㉒飯塚公藤「没入型景観を構成する曲線の定式化手法の開発 一人の視覚特性に着目して」、基盤研究(C)、2020年4月－2023年3月、研究分担者

㉓谷端郷「「地域の文脈」モデルを用いた歴史災害研究の提案—昭和戦前期の都市水害を事例に—」、若手研究、2019年4月－2021年3月、代表

㉔佐藤弘隆「祭礼存続のストラテジーに関する都市社会地理学的研究」、若手研究、2020年4月－2022年3月、代表

(8) 競争的資金等（科研費を除く）

㉕大邑潤三・加納靖之・橋本雄太「歴史災害記録の GIS データ形式での整備と公開・頒布システムの構築」、国立歴史民俗博物館 2020年度国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究（公募型）、2020年5月－2021年3月、代表